香美市文芸

風の流れ

広報委員会　選

◆一般投稿作品◆

野っぱらの香りも高き散歩道　楮佐古きよ
木耳の押しくらまんじゅう千の耳　福留とものり
夏の雲水田に映る韮生郷　山崎　貴子
新緑に縫い疲れたる目を休む　小原　子川
向日葵の人より高く世を照らす　森本　幸美
雨漏りの何処かでしてる梅雨の夜　山﨑　寿美
花しょうぶ溜池の端に乱れ咲き　山本　太幸
まだ生きん筍を剥ぐ力もて　岡田美代子
紫陽花が生き生きとして雨の中　北村千鶴子
遠き日の事など思う露の空　有澤　春江
鐘楼の高さに夏の山展け　千頭　野草
大花火果てたる闇の動き出す　森本　純喜
苦労なるも贅沢参り徒歩遍路　高野　和一
健康も忘れて夢み午睡する　小野寺朱実

◆かがみ野俳句会◆

でで虫の空たぐり寄す枝撓む　佐竹　洋子
紫陽花の色氣づきゐる疎水辺り　鍵山　和枝
鬼百合のつんつん立ちて荒畑や　佐藤　幸
更衣ほつれ直せば宝物　利根　弘子
たらちねの面影重ね新茶摘む　古川　信子
身の丈の暮らしとなりぬ蝸牛　小松　愛子
三分で終る診察かたつむり　中澤　美晴
嫁やさしカーネーションは幸の色　森本　倢代
堰越ゆる水音やわらか夕蛍　山﨑　鈴子
朝練の吹奏楽部青葉光　吉田　芳

◆韮　句　会◆

まくなぎにまとわりつかれ昼の飯　公文　春紀
人恋ひし日ノ御子川に河鹿鳴く　高橋　章
短夜のいのち運べる救急車　北村　幸子
千の田を吹き抜けてゆく青嵐　西川　常夫
寺涼し供へてありぬカップ酒　篠崎　亜希
老鶯も鳴き倦む池の風眠し　甲藤　卓雄
山小屋の小窓明るし桜の実　野崎　典子
菩提樹の花そよ風が香をくるる　北村　里子
街路樹の影選びつつ行く薄暑　明石ゆきゑ
梶の葉のしづかにぬれて梅雨に入る　國澤　英
いつまでも雲かかりいて夏至の過ぐ　前田　芳子
蕺菜を活けて映えたる備前焼　明石　英子
氏神に天の邪鬼在す蟻地獄　竹内　ろ草

◆かほく俳句会◆

生命は水より生まれ夏の月　乾　真紀子
万緑のひと葉に包む柴の餅　奥宮さとみ
空暗き日は淋しさの袋かけ　久保内鏡子
清貧も生きる運命や花菖蒲　黒岩　幸女
父の日の父軍服のまま若し　黒岩千英子
羊蹄の花の広がる売地かな　小松　完
補植などせぬと田植の終るらし　小松志津男
哀悼のサイレン長し繁藤忌　小松　隆之
梅雨の納屋夫婦合羽の掛る壁　小松　昇
更衣六十路が頭よぎりけり　杉山　春萌
五目鮨酢の塩梅は母のもの　野村　里史
いつ上がるとも知れぬ梅雨二日酔　前田　欣一
家囲む棚田十枚青田風　前田　秀女
十薬の花を咲かせてすこやかに　間崎　和代
青萱の傷一文字てのひらに　森本　之子

万緑に沈み込みたる暮しかな　山崎かずみ
空深く嶮岨は晴れて時鳥　山中　晶子
賜ひたる新茶不作の文の添ふ　山中　明石
百トンの風が夏木を騒がせる　山中　瑞輝

◆土佐山田町俳句会◆

開いたままの飛び出す絵本半夏生　前田美智子
春りんどう花芯のひとつは以蔵の目　安丸　槙子
ふるさとの水の匂いや青田風　森田　菊恵
おとろへを鏡に見たり七変化　前田　小夜
蛇のこと尾鰭をつけて話しけり　大石　邦男
たんぽぽの若葉は和へて食へさうな　明石　韮生
立たされし生徒のごとく余り苗　橋本　昭和
菖蒲立つ訃の放送の流れおり　中沢としみ
津蟹籠編む雨脚の強き日は　樫谷　雅道
口笛の鳴らなくなりし麦の秋　田村　一翠

今月のキラリ

大花火果てたる闇の動き出す
ムッとする闇を引き連れて出口に向かう観客の様子を「闇が動く」と捉えたのは実感。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。（ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句（首）以内）
▼かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】企画課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所不要）　FAX 53・5958

香美市立美術館

アートの窓

当館では初の石の彫刻展として、**中田浩嗣の石彫展**を開催します。彫刻家として有名な舟越桂氏が今回の展覧会の推せん文を書いてくださいました。

『推せん文』

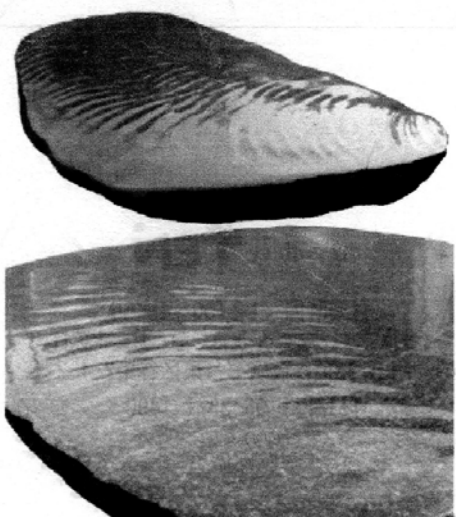
中田浩嗣はもうこの世にはいません。2008年7月に53歳でがんのため亡くなりました。

多摩美術大学院へ進んでから石彫に出会い、それからの彼の人生は石彫と共にありました。数多くのモニュメント彫刻と建築とのコラボレーションの石の仕事をつづける中で中田浩嗣独自の石彫世界を見つけていきました。それは硬い「石」とは正反対ともいえる「水」の姿を石で造るというものでした。

確かな観察力と石彫の技術に裏打ちされたその作品は、穏やかで物静かだった彼そのものの姿であり、頑固なまでに誠実なその作業の跡は、彼が過ごした石との対話の「充実した孤独」とでも言えるような時間を私たちに想像させ、感じさせてくれます。

（舟越　桂）

中田浩嗣 石彫展

8月28日（土）～10月3日（日）

今回の当館での展覧会の開催は、妻・洋子氏、長年一緒に石彫の仕事をしてこられた乾純信氏と、高知在住の加藤俊男氏、彫刻家・舟越桂氏をはじめとするご友人の皆さまの「彼の残した石の彫刻を多くの皆さまに観ていただき、日本にもこんな彫刻家がいたことを知ってもらいたい」という熱い思いにより実現することになりました。

流れ落ちる水・さざなみ・水面の波紋など、硬い石に水が造る形を彫る中田の彫刻は、高度な職人的技術と芸術家としての高い感性が相まって初めて可能になった作品だと思います。

また、一方で、生まれたばかりの命を暖かくつつみ込むようなペンギンの親子や、渥美清演じる『寅さん』の帽子や鞄の中田彫刻は、今までの石彫の持つ硬く冷たい無機質なイメージを変えてしまう暖かさに満ちています。

親子で楽しんでいただける展覧会です。ご来館をお待ちしております。

（館長・北　泰子）

吉井勇記念館だより

吉井勇顕彰短歌大会作品募集

平成23年3月5日（土）に開催される、第8回吉井勇顕彰短歌大会の作品を募集します。

■**作品募集要項**

【作品】1人2首まで。自作、未発表のもので主題は自由。応募用紙または原稿用紙に、住所・氏名・年齢・性別・電話番号・大会当日の出欠・送迎バス利用の有無を明記してください。学生の場合は学校名、学年も記入してください。

【出詠料】千円（高校生以下無料）

※郵便為替または現金書留にて、投稿時に納めてください。

【締切期限】平成23年1月20日（木）必着

【選者】
伊藤一彦　氏（現代短歌・南の会代表、心の花所属）
玉井清弘　氏（NHK学園短歌講座「友の会」選者・「音」選者）
楠瀬兵五郎　氏（高知県歌人連盟会長）

【賞】
一般の部・学生の部（高校生以下）ごとに各賞選出
吉井勇大賞（1首）・吉井勇賞（1首）・特別賞（3首）・佳作（若干首）

【入賞発表】入賞者には2月下旬に電話連絡します。

【送迎バス】市役所西庁舎より、香美市役所香北支所前経由で、送迎バスを運行します。
行き　12時00分発（香北支所前12時20分）
帰り　16時20分発

【注意事項】
・受付後の作品の訂正はご遠慮ください。
・投稿後の作品の返却はいたしません。

【問い合わせ・申込先】
市立吉井勇記念館　吉井勇顕彰短歌大会　歌会係
〒781－4247
香美市香北町猪野々514
☎58・2220
FAX 57・5995